

俳句

大津俳句会

雨止むを待ちかねしごと夏の蝶

井芹眞一郎

黒々と影落としたる夏木立

相原 朋子

波しぶき銀色あびて夏航路

一上日登美

何もかも思い出させし土用干どようぼし

大塚喜久子

ローマ字の表札かけし夏館なつやかた

岡崎 浩子

大降りの梅雨の最中さなかの誕生日

佐賀 久子

歌舞伎座の幕間にゆるる夏扇

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

歩いても歩いても比岸 吊忍

榮田しのぶ

現世を洗い流して梅雨晴れ間

村田 健二

青梅ぼとり風に揉まるる青年期

志賀 孝子

鉛筆なめる癖の少年半夏生

田上 公代

青いまま生きて螢の群れの中

上杉 波

地球儀のつぶやき赤いソーダ水

矢嶋 道子

紫陽花ゆれてトランク一つ旅に出る

梅木トキエ

揚羽蝶庭の椅子にて一休み

塚本 洋子

短歌

大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

ブロッタの根元に若葉つく紅葉は一寸ばかり立ち上がりたり

高村 貴子

黄の百合の大きく咲いてかがよえりつゆの雨ふる夕べの庭に

吉田 良子

笑い声聞けば元気になれるのと我を笑わす米寿の友は

本田 咲

初めてのビデオ通話に写れるみれば八十の姉は楽しげなり

田中 玲子

マンションの上に日は沈みゆく金峰山の夕日を見たし

豊岡ミツル

純白の大きな薔薇咲きにけり湖面に浮かぶ白鳥のごと

小平 善行

大阿蘇の裾野に野火放たれて竜吐く舌のごとく這いゆく

吉永 恵子

草の根の延びにのびたり鋏を振るわれに抗議をするかのごとく

坂本 杲子

山あいの四三名の学校にファッションナブルな校長赴任す

鞍 岳志

夫の手を引き庭に出て昼餉するゴールデンウィークの楽しみとして

山本 泰子